

ローラメルシエ

新ブランドロゴを発表

ローラメルシエは8月1日、ブランド名の下に「PARIS」「NEW YORK」の2つの都市名が加えられた新たなブランドロゴを発表した。

今回のロゴ変更は、2016年に資生堂グループに加わり、今後グローバルブランドとして成長していくためのリ・ブランディングの環境であり、これからブランドが変革していくという意思表示でもある。ブランドの創始者であるローラ・メルシエ氏がメークアップアーティストとしての礎を築いたブランドのルーツともいえるパリと、第一線で活躍を続けたN

LAURA MERCIER  
PARIS | NEW YORK

今回のロゴ変更は、2016年に資生堂グループに加わり、今後グローバルブランドとして成長していくためのリ・ブランディングの環境であり、これからブランドが変革していくという意思表示でもある。ブランドの創始者であるローラ・メルシエ氏がメークアップアーティストとしての礎を築いたブランドのルーツともいえるパリと、第一線で活躍を続けたN

ホルス

新工場稼働で原料の生産キャパシティを向上

グループ総力による製販一体型で原料ビジネスと末端向け製品を展開しているホルスは、取扱開始から4年を経て高まった「酵母331（サミー）株」の売れ行きに対応するため、新工場が11月の正式稼働に向けて試験稼働を本格化させている。

プラセンタエキスやサイタイエキスに続く柱へ育成しようとして、4年間の開発期間を費やして発売した「酵母331株」は、仕掛けの部分で、同グループは日本天然物研究

今年秋のキャンペーンは、次刷新していくなど、本格的にリ・ブランディングを進めていく。新ロゴ発表により「ローラメルシエ」は再始動のスタートを切った。一人ひとりが持つ本来の美しさを最大限に引き出すマーク「フローレスフェイス」というブランドの基本的な価値は守りながらも、ブランドのグローバル化をさらに加速させ、世界中の女性を魅了するブランドへと進化していく。



331株」はBtoBとしての原料販売も芳しい進捗となっている。原料売りと製品製造受託が一度に叶う商流からは、多店舗展開をしている有力ドラッグのほか、訪問販売の古参が自社PB化によって年間取扱高が「卸価格で数億円に達している」（ホルスマーケティング部）ケースがあることを明らかにしている。

宝鋒

中国百貨商業店協会と化粧品商談会を開催

宝鋒と日中化粧品・健康食品事業促進協会、中国百貨商業店協会国際化粧品分会は、中国向け化粧品展示商談会を2018年11月26日にTKP品川カンファレンスセンター（東京都港区高輪3-26-33京急第10ビル）で開催する。参加費用は税込9800円。

FD Aへの代理申請を依頼すれば、他の代理申請会社よりも許可されやすい。また、中国での販売についてアドバイスを受けることもできる。これまで多くの国際提携を成功させた主催者が力を合わせて商談会を開催して日中のパートナー関係を締結させ、トータルでサポートをすることで成功に導けると考えている。

（小林峰宝鋒代表）  
今回は、中国から王府井百貨店、ワトソン集団、韓亜（中山）進出口貿易、重慶集創科技集団、広州濱果国際貿易など40社の販売店・販売代理店が参加する予定だ。参加条件は、中国向けの販売代理店を持たない、展示商談会を通して代理店を持ちたい会社で、中国企業と取引が実現した場合、百貨商業協会という。



M&Aで化粧品製造工場を入手

サテイス製薬

化粧品OEM事業を展開するサテイス製薬（本社：埼玉県吉川市、山崎智士社長）は10月4日、ガイア・エヌピーの化粧品製造工場をM&Aにより入手し、国内4工場体制となった。

インバウンド需要の影響により、化粧品OEM不足が大きな課題となっている。同社でも増え続ける

ける生産量に対し、限られた生産体制で対応している状況だった。そこで生産能力拡大を目的に、今回の工場入手に至った。同社は、入手した第4工場にバルク製造装置と自動生産ラインを導入し、大量受注品の専用工場という。一方、本社工場については引き続き、小ロット受注品の工場として活用し、多種多様なニーズに合わせて対応していく。同社は今後、M&Aの積極投資だけでなく、新工場建設も検討していくという。



小林 代表

「国際化粧品分会にC